

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	I 理念に基づく運営			
	1. 理念の共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域運営推進会議を開催し、地域の方々やご家族の方々に参加頂き、グループホームの現状報告を行なっている。また地域の行事に積極的に参加したり、納涼祭や餅つき等の行事の際には、地域の方々への参加を呼びかけ地域との交流を図っている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の朝礼時に唱和を行い、理念を念頭におき実践に向け努めている。日々の業務の中で、声掛けをする際には、入居者の方の自尊心を尊重しながら選択の自由を提供する等「自分らしく生きる」為の援助を実践している。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族には入所時・面会時や毎月のふれあい通信等で説明を行って理解を示して頂いている。又、地域とは運営推進会議を通じて理念の説明を行っている。		
	2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣近所への挨拶は行っており、行事がある際には参加の声掛けを行い、日常的な付き合いをしている。また地域の行事が開催される際には、参加させて頂いている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老入会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	祭りや運動会がある時には入居者の方々と一緒に参加したり、あんずの郷で行う行事には、地域の子供に声をかけ参加頂いている。また、職員も地域で行っているお祭りの御神輿を担いで欲しいと自治会長から依頼され、参加したりしている。		地域の一員として事業所主体の行事を行いそれが定着し、地域の人が気軽に参加できるようにしたい。
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議を通じて、地域の高齢者の状況の把握に努め、地域で介護相談室を開催して高齢者の方々への支援を行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価で指摘頂いた点を議題とし、ミーティング時に職員で話し合い対策を検討し環境作りや、介護計画の充実などに役立っている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所のサービス内容を報告したり、運営方針を報告している。また意見を頂戴しサービスに取り組んでいる。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	研修会のときに市町村職員に報告し連携を取っている。(事業者連絡会やグループホーム協議会等)		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外内部研修にて学ぶ機会を持ち、必要とされる方にはその都度説明している。		今後も定期的に研修を行っていく。
11	○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外内部研修にて学ぶ機会を設けている。		今後も定期的に研修会を行っていく。
	4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には十分時間を設けている。最初に契約書を渡し、持ち帰って頂き後日疑問点を伺っている。その後はこちらから説明を行い、更に疑問が無いかをお伺いし、なければ契約を結ぶようにしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置してご家族や入居者が意見や苦情を言い易い環境を作っている。意見を頂いた際には職員間で検討し、改善に努めている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の生活状況をふれあい通信としてご家族に送っている。また面会時にその都度状態の説明を行っている。また必要な際にはご家族への電話連絡も行っている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、面会時に積極的なコミュニケーションを図る事で、意見等を言い易い環境を作っている。また意見を頂いた際には、職員への周知を徹底し、内容を検討し、改善に努めている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に運営に関する職員の意見や介護に対する思い等をアンケートを通じて聞いている。それをミーティング時に職員共に話し合いを行っている。また年2回の面接時にも意見を聞いている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	個別レクリエーションや合同レクリエーション時には職員の勤務時間の変更などは柔軟に行っている。また職員にも説明して納得して頂いている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者への影響が出ないように配慮した人事を行っている。新しい職員が入った際には、入居者の特徴などを考慮して声かけを行うように考慮している。		
	5. 人材の育成と支援			
19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用の際には、偏見を持たずに面接を行って決めている。介護の経験の無い方や外国人の採用も行っている。また職員の資格習得の為に、勉強会の開催や社会参加への協力も行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居者の人権を尊重するように入社時には職員への教育を行っている。また定期的に勉強会を開催している。		
21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員への内外研修を行っている。また経験の豊富な職員の話を会議等で話してもらい、職員のスキルアップに取り組んでいる。		
22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会や事業者連絡会に参加し交流する機会を設けている。		
23	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休みの調整や親睦会を行ったりして、職員のストレスを軽減できるように努めている。また相談役を位置づけて、いつでも相談できる関係を築いている。		
24	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	チャレンジシートと事業所独自の物を採用して、勤務状況や職員個々の努力や実績を賞与等に反映している。		
	II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	新規利用の方はホーム長・プラン担当職員が中心に話をする機会を多く作り、信頼関係を作るようにしている。		
26	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	「このサービスしかできない。」と決め付けるのではなく、相談に応じ柔軟に対応している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「このサービスしかできない。」と決め付けるのではなく、相談に応じ柔軟に対応している。		
28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	短時間に日帰り利用を繰り返したり、家族同伴の体験利用を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と作業する機会を多く作り、コミュニケーションを図りながら共に生活していると感じて頂けるよう配慮している。		
30	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の希望を叶える外出レクリエーションの際には家族にも意見を聞き利用者の希望に副えるよう配慮する。また家族へも参加を促し、共に過ごす時間を持てるよう支援している。介護計画や援助の方針・日常生活など、その都度相談・報告をしている。		
31	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居者の方と家族との関係を理解して、入居者の方と家族が良い関係になれるように支援している。		
32	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の友人との関係が途切れないよう支援したり、利用者を馴染みの場所へお連れする外出レクリエーションを企画している。		
33	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者全員又は数人で出掛ける機会を作ったり、コミュニケーションを図る機会を設けたり、数人で行えるレクリエーションを提案し、利用者同士が接する機会を多く提供している。		
34	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス終了後も連絡をとり、遊びに来て下さる方もいらっしゃる。また契約が終了しても、家族との関係は断ち切らない付き合いを大切にしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人一人が自分で決めたり、入居者のかたに選んで頂けるように環境をつくっている。		より詳しく把握する為に、わかりやすい
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	絵をかく事が好きな入居者の方には、絵を書くレクリエーションを多く行ったり、編み物が得意な入居者の方には服の綻びがあった際には手伝って頂くなど、入居者の方々がこれまでの経験を活かしてもらえよう支援している。		より詳しく把握する為に、わかりやすい
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者の方々一人一人の一日の生活の流れを把握して支援するように努めている。		より詳しく把握する為に、わかりやすい
	2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画を作成する前に、本人・家族・かかりつけ医・他専門職にそれぞれの意見・希望を聞いて介護計画に反映するようにしている。		今後は家族にもう少し積極的にアイデアを出して頂いたり、介護に協力して頂けるようにしたい。
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間にとらわれず状態の変化が生じた時はプランの変更を行っている。また毎日のミーティング時や月1回のフロア会議などで利用者の状態の変化がないか確認を行っている。		
40	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子の記録は特記事項に記入を毎日行い、情報の共有をしながら、日々の介護や見直しに活かしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、馴染み関係を大切にしながら事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所の多機能性を活かし、その時々要望、状態に応じて支援している。		
	4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
42	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	今のところ、意向や必要性なし。		今後必要であれば検討していく。
43	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	同上		同上
44	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	入居待機者の方で地域推進課の方との連携を図りながら、権利擁護(成年後見制度)を利用する体制をすすめている。		
45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人、家族の希望を尊重して、以前からのかかりつけ医にされている方もいる。系列医療機関でも診察は可能である事を入居時に説明はしている。		
46	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関で「ものわすれ外来」を行っている事もあり、相談や診断をして頂いている。		
47	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	系列医療機関の看護師も含め、医療機関との連携は整っている。また24時間対応してもらえるような体制をつくっている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	系列医療機関の他、有床の医療機関を協力医療機関として確保しており、入居者が入院された際には、家族・医療機関と情報の交換を密に行い、早期退院に向けた支援をしている。		
49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に重度化した際の終末期のあり方については説明しているものの、重度化に対しての具体的な方針は重度化になりつつある際にその都度行っている。		今後は全入居者の家族に対し、重度化になった場合のご家族としての考え方を確認する場を設ける。
50	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化に関する指針やホームの看取りに対しての考え方を打ち出している。また重度の方は個別に職員がご家族との同意書も交わしている。		
51	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	別の居住へ移り住む際には、本人・家族・ケア関係者間での十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐよう努めている。		
	IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者への声かけには、誇りやプライバシーを傷つけないように配慮を行っている。また、記録等の個人情報の取り扱いには十分注意をしている。		
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者一人一人が自分決めたり希望を表したりする事を大切に、本人の分かりやすいように説明を行っている。		
54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人一人のペースに合わせた介助を大切にして入居者の希望を優先して支援している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	着る服を選んで頂いたり、行事の企画の時にいきたい場所をお聞きたり、買い物にお連れして好きなものを選んで頂いている。理容・美容は希望がある方にはいきつけや望む店にいけるよう支援している。		
56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備・片付けは入居者と共に行っている。献立についても、週2回自由食を取り入れて、入居者の方にその都度希望を伺い、食べたい食事を作っている。		
57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	現在タバコを吸われたり、お酒を飲まれたりされる方は居ないが、以前吸われていた方には、タバコを吸われる際には外へ一緒に付き添いをする等して、入居者に合わせた対応を行っている。		
58	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居者の排泄パターンを把握して、定期的に声かけを行ったり、誘導して排泄の失敗などを出るだけ減らせるように努めている。		
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴については入居者の希望に合わせて行っている。また、季節に合わせた入浴剤(ゆず湯)などを使用して、楽しく入って頂けるように配慮している。		
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居者一人一人の生活習慣を把握して、状況に応じて居室に誘導して横になって頂いたり、ホールにソファを設置しているので、そこでゆっくりと休息してもらおうなどの支援をしている。		
	(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の方に合わせた役割を把握して、できる事・したい事を考慮しながら支援している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいない項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者と一緒にお買い物に行った際には、レジでお金を支払って頂いたり、ご自分のお小遣いで買いたい物を買ってもらうなどの支援をしている。		
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ぎずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には入居者の希望に合わせて外出を行うように支援し、時にはドライブ等も行っている。身体的に外出が困難な方でも、わずかな時間でも外の空気を吸って頂くなどの支援をしている。		
64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個別に入居者がしたい事・行ってみたい所を聞いて、月のレクリエーションとして盛り込んでいる。その際にはご家族の話聞き、一緒に出掛けられるよう支援している。		
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者から要望があった際には電話をかけたり、手紙を書かれた際には一緒にポストまで出しに行く等して対応している。		
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や知人がいつでも来易い環境を提供している。面会に来られた際には居室へ誘導し、お茶をし、お出出してゆっくりとお過ごし頂けるよう支援している。		
	(4) 安心と安全を支える支援			
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に対しての知識については、研修を通じて正しく理解してもらっている。現在は身体拘束を行っている入居者はいない。		
68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や玄関には鍵を掛ける事は行っておらず、エレベーター前の扉にはチャイムを設置し、音が鳴るようにしている。		
69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者の所在確認は常に行っており、居室にいる際にも定期的な見まわりを行い、安全に配慮している。またその際にはプライバシーにも配慮し、居室に入る際には必ずノックを行うように徹底している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意が必要な物品に関しては、何処におけば危険を回避できるかを職員間で話し合っ対応している。		
71	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	緊急時のマニュアルを作成して、入居者一人ひとりの状態を把握してもらっている。またやむなく事故が発生した際には今後の対応策を職員間で話し合い事故防止に取り組んでいる。避難訓練については年2回実施している。		
72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急対応については全職員を対象に消防署の方に来て頂き研修を実施した。また定期的に内部研修も行っている。		
73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	自治会の集まりや運営推進会議を通じて協力を呼びかけている。また校区の防災訓練にも参加している。		
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居者の起こりうるリスクについては入居者の状態に応じて面会時や月に一度のふれあい通信で家族にしている。また対応策についても家族と相談を行っている。		
	(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタルチェックを行い、異常時の早期発見・早期治療に努めている。また異常がみられた際には、病院等と連携を図り対応している。		
76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が薬について分かるように、個人ケースに薬の処方箋を挟んでいる。また目的についても薬が変更になる度に伝達ノートに変更理由の説明を記入し、全職員に伝わるようにしている。		
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	内部研修を通じて疾病などについての知識を得られるよう努めている。また便秘などがみられた際には水分補給強化や薬の調整などで対応している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	入居者全員に食後の口腔ケアの声かけを行っており、入居者の状態に合わせたケアを支援している。		
79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、摂取量を記録し栄養がきちんととれているか確認している。また排尿量も記録し、少ない場合は水分補給強化を行うなどしている。		
80	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成し、感染症等で統一した対応ができるようにしている。また、定期的に感染症の研修を行い知識を深めている。		
81	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	消毒チェック表を作り毎日まな板・包丁の消毒を実施している。また週に1度食器類の消毒も実施している。		
	2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
82	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関の大きな窓から明かりを取り入れ、季節を感じて頂けるような小物を設置する等、明るい雰囲気を感じて頂けるよう配慮している。		
83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きな音や不快な音がする際には、利用者への声かけを行い、短時間で終わるよう配慮している。家庭的な物品や季節感を感じて頂けるような装飾品にて温かい雰囲気になるように努めている。		
84	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内に座敷を設置し、少人数で過ごせる場を提供している。		
85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や物品はもちろん、幼少期に使われていた大正琴をお持ち頂き飾るなど、実施している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
86	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	定期的に換気を行っている。また空調調節を適宜行い、利用者が快適に過ごせるよう配慮しながら体調管理に努めている。		
	(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
87	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーにし、ホール内やトイレ内に手すりを設置したり、車椅子のまま洗面所を使用できるようにし、自立支援を促している。		
88	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	洗面道具や洗濯物に記名し、各自が御自分の物を他利用者の物と区別し使う事ができるよう配慮している。		
89	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダにはベンチを設置し、語らいの場としても使えるようにしている。また家庭菜園の場ともなっており、水遣りを日課としている利用者もいる。建物の周りには日当たりのよい場所があり、ひなたぼっこを実施するなど利用している。		

番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所に○印をつける)
v サービスの成果に関する項目		
90	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者の 《 》②利用者の2/3くらいの 《 》③利用者の1/3くらいの 《 》④ほとんど掴んでいない
91	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	《 ○ 》①毎日ある 《 》②数日に1回程度ある 《 》③たまにある 《 》④ほとんどない
92	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
93	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
94	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
95	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない

番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
96	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
97	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	《 ○ 》①ほぼ全ての家族と 《 》②家族の2/3くらいと 《 》③家族の1/3くらいと 《 》④ほとんどできていない
98	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	《 》①ほぼ毎日のように 《 ○ 》②数日に1回程度 《 》③たまに 《 》④ほとんどない
99	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	《 ○ 》①大いに増えている 《 》②少しずつ増えている 《 》③あまり増えていない 《 》④全くない
100	○職員は、生き活きと働いている	《 ○ 》①ほぼ全ての職員が 《 》②職員の2/3くらいが 《 》③職員の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
101	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
102	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	《 ○ 》①ほぼ全ての家族等が 《 》②家族等の2/3くらいが 《 》③家族等の1/3くらいが 《 》④ほとんどできていない